ここが聞きたい！

いっぱん

観光入り込み客数の目標を

藤原和範 議員

町長 85万人目標達成を目指し観光振興を図る

問 町の資源を活かし、地域経済への波及効果が大きい観光に力を入れることが重要と考える。

来年の3月には尾道松江線の全線開通、合併十周年の節目の年でもある。観光入り込み客数の目標を掲げ、「観光の町づくり」をアピールすると共に、目標達成を目指した取り組みを展開することが大切と考えるが。

答 本町の観光入り込み客数は、合併当時約58万人、現在は過去3年間の数値を見ると70万人後半で、ここ10年間で約10数万人増加している。目標を掲げ、各施設が情報を共有し連携を強化して取り組みたい。85万人目標達成を目指し観光振興を図る。

問 そばを活かした交流人口の拡大について。新そば祭りをはじめ多くの人にそばを食べに来てもらっている。このチャンスを町の振興に活かさない手はない。今一度、そばの町として、そば店舗を中心にした「(仮称)そば振興協議会」を立ち上げ、官と民が力を合わせて、そば振興や滞在型観光などへの取り組みを検討していくべきでは。

答 そば振興協議会の立ち上げについては、必要に応じて検討していく。滞在型観光については、そばをはじめ温泉、自然、文化などの地域資源を最大限に活用し、観光アドバイザー等とも相談しながら観光プランについて前向きに検討したい。

問 ソバの安定した供給体制の確保について在来横田小ソバなど地元産ソバを使用した「奥出雲そば」を守るためにも、生産農家の育成と産地化を推進すべきと考える。そのためにも、安定した所得向上のため在来小ソバの価格補償等の検討は。

答 舟木農業振興課長

ソバの生産面積の拡大は、有機エゴマとの生産振興の調整もあり、今後は横ばい状況と考える。観光客に人気の高い在来小ソバに栽培転換していくことをそば店も含め、生産者や関係機関と今後検討したい。栽培管理や反収(たんしゅう)の少ない在来小ソバの価格補償や作付奨励などの助成は、必要であると考えている。

多くの人で賑わった「新そば祭り」

問 奥出雲和牛の振興について。高齢化、担い手不足等により飼育農家そして頭数が年々減少する中にあって、農家の意欲を喚起するためにも、より生産コストの低い畜産経営への具体的な強化・支援策は。

答 しまね和牛の主産地としてリードする立場にある本町の和牛振興は、今後も関係機関と連携し、優秀な技術指導者の育成、優良基礎雌牛の保留・導入事業の継続や和牛改良組合の活動助成、また次期全共出品対策など支援を拡充していくことが重要と考える。具体的には畜産農家及び集落営農組合等への経営支援として、共同牛舎の新築や増改築、放牧畜産、ロールベーラーなどの共同粗飼料収集機械の導入支援等、引き続き県単補助及び町単事業により、農家経営の維持安定に向けて事業支援していく。